成功事例

Hot Telecommunication社は、インフォマティカでデータを保護、プライバシー

「Informatica Dynamic Data Maskingを利用することで、当社はデータの潜在力を最大限に活用できます。機密情報や個人情報がどのように使用されるか、誰がアクセスできるかを心配する必要がなくなり、新しいアプリケーションやサービスを迅速に開発できるようになりました」

- Zeev Goldshtein氏、Hot Communications社CISO（最高情報セキュリティ責任者）

イスラエルの大手通信プロバイダー、Informatica Dynamic Data Maskingによって迷路のような運用環境のデータ侵害のリスクを回避

今までは、玄関のドアに鍵をかけずに外出するようなものでした。イスラエルの通信企業Hot社で運用環境のセキュリティを確保する手段は不適切なものでした。セキュリティ侵害は発生していなかったものの、顧客の氏名と住所、電話番号、請求データなどの機密情報が社内外の脅威にさらされるリスクが絶えず存在していました。しかし、Informatica® Dynamic Data Masking（DDM）に基づいて標準化することで、ユーザーの認証レベルに基づいた柔軟なデータマスキングルールが適用され、機密情報は必要最小限の人だけが必要に応じて参照することが徹底されました。

このソリューションによって、同社は運用環境で機密データを保護しながらデータを最大限活用することが可能になります。また、データ侵害のリスクを排除しながら、数千人のエンドユーザー、IT担当者、コンサルタント、アウトソース担当者による運用環境へのアクセスと管理を実現します。さらに、DDMによって、広がり続けるサービス提供範囲をサポートしながら、クレジットカードや顧客情報などの機密情報についても業界固有のコンプライアンス要件へ高い信頼性で対応できます。

イスラエル国内130万世帯に通信サービスを提供

Hot社は、多重チャンネルテレビ、ラストマイルインターネットアクセス、ブロードバンド、固定電話、携帯電話接続サービスを提供している通信企業のグループです。同社はイスラエル国内の約130万世帯にこれらのサービスを提供し、5,500人以上の正社員を擁しています。

ビジネスイニシアチブ：

- アプリケーションやデータベースを変更する必要なく、わずかな時間とコストで、データセキュリティを統制する国や地域、国際、業界のデータプライバシー法を遵守する
- 社内外のセキュリティ侵害から個人情報や機密情報を保護する
- 魅力的な新しい通信機能や通信サービスの開発を促進する
- テスト、開発、品質保証（QA）のコストを下げる

テクノロジー戦略：

インフォマティカのプラットフォームが提供するInformatica Dynamic Data Maskingコンポーネントを導入することで、リアルタイムの柔軟なデータ アクセス コントロールと監査、ユーザーの認証レベルに基づくマスキングルールを適用。

メリット：

- 増え続ける各種法規へ迅速に対応
- 運用環境または非運用環境の個人データや機密データをセキュリティ保護することで、バンドルされた魅力的な通信ソリューションの開発を高速化

保有しているデータの価値を最大限に引き出すことを求めていた同社は、ビジネスインテリジェンスを活用することで新しい通信サービスの構築、高い価値を提供するサービスエクスペリエンスの提供、バンドルした魅力的なソリューションなどを通じて、顧客ごとの売り上げを最大化したいと考えていましたしかし、データセキュリティに関する問題が、これを実現する上での妨げになっていました。同社の技術者、ビジネスサポート チーム、サプライヤー、外部委託の従業員は、顧客、商品、請求データなどの機密情報や個人情報へ簡単にアクセスできました。

セキュリティ侵害の事案は発生していないものの、これらのデータへの認証も管理もされていないアクセスは、自社の評判の低下、コストの増加、規制違反の罰則適用などにつながるということを理解していました。

さらに、同社の権限のあるユーザーが、業務を遂行する上で必要のない機密データにうっかりアクセスしてしまうことがよくありました。例えば、あるデータベース管理者（DBA）が、パフォーマンスの問題を調査するために同社の運用請求システムを使用する必要があるとします。この場合、DBAは顧客の信用情報などの機密データを見る必要はありません。業務を遂行する社内のチームが運用環境へアクセスする必要があるのに、その中の機密情報を見てはならないという要件を満たすのは非常に困難なことでした。同社の場合、アクセスを「必要最小限の人だけ」に制限する必要のあるデータが大量にあったため、問題はさらに深刻でした。

安全で使いやすく拡張可能なインフォマティカのマスキングソリューション

従来の暗号化は、同社に適したソリューションではありませんでした。従来の暗号化環境ではトランザクションを読み込むたびに暗号化し、書き込むたびに復号する必要があります。クエリを実行するたびに機密情報の暗号化と復号を行うと、パフォーマンスの低下が同社のデータベースの運用を妨げる恐れがあります。

Zeev Goldshtein氏は、もっと簡単で効果的なアプローチを求めていました。CISO（最高情報セキュリティ責任者）である同氏は、次のように述べています。「動的データマスキングを提案したのはインフォマティカだけでした。他社のソリューションは、データベースの暗号化や物理的マスキングを基盤としたシンプルなマスキングツールで、実際の運用環境で使用できるものではありませんでした。Informatica Dynamic Data Maskingは拡張性や使いやすさも備えており、業務上重要な情報を、必要な人だけに提供することができます」

Hot社は、侵害を防止してデータセキュリティを適用する戦略の一環として、Informatica Dynamic Data Maskingを導入しました。機密性の高い運用データをマスキングするクラス最高のこのソリューションにより、同氏のチームはユーザーの認証レベルに基づいて柔軟なデータマスキングルールを適用することができました。Dynamic Data Maskingは、ソースコードを変更することなく同社のデータを匿名化し、運用アプリケーションやデータベースを保護して、運用環境への不正アクセスを抑制します。これらすべてのタスクが、運用環境に影響を及ぼすことなくリアルタイムに実行されます。

- 機密データを不正アクセスから保護し、必要最小限の人だけがアクセスできるようにすることで、情報の価値を最大化する
- 評判の低下、コストの増加、規制違反の罰則の適用につながる恐れがデータ侵害のリスクを排除
- 最長1週間を要していたテストデータ環境の作成時間を、わずか数分間にまで短縮

要点：

- ソリューション：情報ライフサイクル管理
- 製品: Informatica Dynamic Data Masking
- ソース：顧客、商品、請求などのデータを含む、最大50件のデータベース
- ターゲット：運用、テスト、QA環境

従来は1週間を要していたテスト環境の作成を数分で完了

Hot社は、開発環境が不正アクセスから保護されているという安心感のもとで新たな通信機能やサービスを迅速に構築できるようになり、結果としてこのソリューションが同社の開発プロセスのスピードと質を変革することになりました。以前は、Goldshtein氏のチームがデータベース全体をテスト環境や品質保証（QA）環境にマッピングしており、これに7日間を要していました。

Informatica Dynamic Data Maskingを使用している現在では、スナップショットを作成してDDMでセキュリティを確保するだけなので、完了までに数分しかかかりません。

「Informatica Dynamic Data Maskingを利用することで、当社はデータの潜在力を最大限に活用できます。データがどのように使われるのか、誰がアクセスできるのかを心配する必要がなくなり、機密データが保護されていると確信できるため、新しいアプリケーションやサービスを迅速に開発できるようになりました。このようにしてデータをマスキングすることで、当社はすべての運用環境のセキュリティを保護し、開発プロセスを促進して、バンドルされた強力なコミュニケーションサービスを迅速に展開し、数百万人に上るお客様へ有意義なエクスペリエンスを提供することができます」（Goldshtein氏）

これらのすべてが、Hot社のコンプライアンス目標に合致しています。例えば、細かいポリシーを設定することで、チームはデータベース全体ではなく、特定のテーブルや行、列といったデータの特定の部分を動的にマスキングすることができます。監査へ対応するために、データをマスキングしたタイミングやマスキング対象のデータを示す、監査用レポートも生成できます。Goldshtein氏は次のように述べています。「現在は、クレジット カード データや個人データ、財務データなど、機密データに誰がアクセスしたのかをすべて把握しています」

〒105-6226 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600(代表) FAX：03-3433-1021
www.informatica.com/jp linkedin.com/company/informatica twitter.com/Informatica

IN16_0613_02471_0214_0718